

源流の四季

第7号(2002年10月) 秋



Autumn

発行所/多摩川源流研究所 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4383
TEL 0428 (87) 7055 FAX 0428 (87) 7057
発行責任者/中村文明
協力/多摩川源流協議会(塩山市・奥多摩町・丹波山村・小菅村)
多摩川源流観察会
印刷/(株)サンニチ印刷
http://www.tamagawagenryu.net
E-mail:genryu@mx.cosmo.ne.jp



丹波溪谷の紅葉(撮影 中村文明)

Contents 目次

源流の巨樹.....	2
多摩川源流協議会を結成.....	3
特集「源流体験教室」.....	4・5
源流古道の旅.....	6
都水源林の経営計画の変遷.....	7
水と森と食の祭典・大地の恵祭.....	8

源流の巨樹からのメッセージ

何年かけて急峻な源流の稜線に根を張ってきたのだろうか。

強風や大雪、干魃や大雨の試練を何回くり抜けてきたのだろうか。

君たちは源流の誇り、源流の希望である。



奥多摩町日原・産沢の「千年の松」。(7月、共村社造森業研究所主任研究員とともに)



奥多摩町日原・金銀山のミズナシ。(10月、巨樹研究員北山都人さんとともに)

多摩川源流協議会を結成

県境を越えて協調体制を確立し 源流の自然環境の保全と活性化へ

塩山市、奥多摩町、丹波山村、小菅村の四市町村は、七月三十



多摩川源流協議会設立総会（7月30日、小菅村役場）

日、小菅村役場で、多摩川源流協議会の設立総会を開催した。

総会には、三枝剛塩山市長、大館啓典多摩町長、守屋武彦丹波山村長、廣瀬文夫小菅村長をはじめ助役や担当課長らが出席。総会では、協議会の規約を制定、役員を選出し、本年度の事業計画と予算を承認、源流域に位置する四市町村が県境を越えて協調して多摩川源流の自然環境保全と活性化に向けて連携を強化することを確認した。

「寛仁親王殿下
多摩川源流域御視察
記念式典」を契機に

はじめに総会では、助役会を代表して、奥多摩町の河村文夫

助役が多摩川源流協議会の趣旨説明及び結成に至る経過報告に立った。

河村助役は、「昨年十二月十八日の「寛仁親王殿下多摩川源流域御視察記念式典」を関係四市町村が実行委員会を結成して成功させた経緯を契機にして、三枝塩山市長から「多摩川源流域の四市町村の協調体制について」の見解が示され、広大な都水源林を抱えるという共通課題を共に考え、情報を交換し、相互の信頼関係を築いていくこととは、これからの源流域のあり方を探求していく上で大変重要であるとの認識で一致し、この三枝市長見解を受けて助役会議を開いて源流域の四市町村の協調体制の確立に向けた協議を積み重ね、今日に至った」と報告した。

協議会の規約を制定

続いて廣瀬文夫小菅村長を仮

議長に選出して、多摩川源流協議会の規約の審議に入った。廣瀬村長は、協議会の規約の制定について事務局からの説明を求めた。

事務局を担当した多摩川源流研究所の中村文明所長が協議会の規約を説明。「源流協議会は、源流域の資源とその価値に注目し、共同の取り組みを通して源流域全体に新たな光を当てることを目指し、自然環境の保全に取り組みとともに、源流域の活性化に資することを目的とする」と。活動内容に関して「源流のあり方の調査・研究、流域への情報発信活動、源流と中下流との交流の促進」等の事業を推進すること、さらに「事務局は、小菅村多摩川源流研究所に置く」と等規約の全文を朗読した。

規約が承認された後、役員を選出に際して関係市町村長の協議が行われ、会長に三枝剛塩山市長、副会長に大館啓典多摩町長がそれぞれ選出された。

源流の豊かな自然は、その価値と魅力を増す

会長に就任した三枝市長は、「この二十一世紀は環境の世紀、水の世紀と言われています。多摩川源流域の豊かな自然は、時

代の流れと共にその価値と魅力を増していくものと確信します。源流と流域の住民がお互いの心と力、知恵と情熱を寄せ合い、子供たちに自信と誇りを持って継承できる多摩川源流に育てていきたい」と挨拶した。

続いて、参議院議員の岩井國臣氏、国土交通省京浜工事事務所の海野脩司所長、県峡東地域振興局塩山建設部の保阪茂久部長、県富士北麓・東部地域振興局大月建設部の山下松美部長（県を代表して保阪部長から）、都水道局水源管理事務所の湯本敏夫技術課長からそれぞれ来賓の祝辞を頂いた。

研修会やパンフ発行へ

総会は協議事項に入り、事務局から、平成十四年度事業計画及び予算案の説明があり、研修会の開催や記念パンフの発行を柱とする事業計画と予算が承認された。また、源流研究所が発行する「源流の四季」に源流協議会として協力することを申し合わせた。

総会は、大館副会長が閉会の言葉を述べて終了し、引き続き懇談会に移り、守屋武彦丹波山村長が挨拶、和やかな一時を過ごした。

共感の輪広がる「源流体験教室」

川崎・瑞穂・稲城・三鷹・調布・日野・多摩・大田・昭島・山梨などの各地から源流へ

この夏、「源流体験教室」に熱い視線が送られてきました。五月の県立ろう学校を皮切りに、七月に「小菅小五年の源流体験」、川崎水辺の楽校の「源流体験」、八月の瑞穂町教育委員会の親子の「源流体験」、稲城市青少年委員会のジュニアリーター育成会合宿の「源流体験」、さらに三鷹市教育委員会青少年会館の「源流体験」、(狛江は台風で中止)、調布市児童館の「源流体験」、日野市ふるさと博物館の「親子源流体験」、稲城市青少年地区委員会の「親子源流体験」、九月の多摩市・諏訪小学校の「源流体験」、大田区の多摩川探検隊の「源流体験」、昭島市の成臨小学校の「源流体験」と源流体験の輪が大きく広がりました。

この自然を自然のまま残したい

昨年度は、モデル事業で取り



川崎水辺の楽校の源流体験 (7月27日)

組んだ「源流体験教室」でしたが、川崎と昭島(狛江は台風で中止)の二地域にもかかわらず、参加者からは「V字谷の神秘的な美しさ、綺麗な流れと苔むした巨木がとても印象的でした。」「初めての新鮮な源流体験でした。スタッフの話聞いて「瀬」や「淵」を見ると自然は無限の力で生きてるんだと感じ、源流から勇気をもらいました」

「水の中にも入り歩くアドベンチャープランはなかなか体験できなないので大変良かった」と反響は大きく、今年度への確かな

手応えをつかみました。

今年度の特徴は、水の流れや力、その魅力が印象に残ったなご源流の自然に対する感動と共に、「子ども達の瞳が素晴らしかった」「子ども達が親に頼らずたくましく見えた」など、源流体験を通して子ども達が成長し変化していく姿への親たちの暖かいまなざしが印象的でした。

「源流体験」アンケート

水の流れ、力、魅力
強く印象を持った

■大変楽しい体験でした。稲城

から二、三時間の近いところにこんなに素晴らしい、貴重な場所があり、大切に保存、管理されていることに感心、感激しました。子供たちに体験させることは非常によいことと思います。水の流れ、水の力、水の持つ魅力に強く印象づけられた。

永遠にこの自然を
息づかせたい

■非常に感動しました。水流の冷たさといい、自然を身近に感じることができ、十年後、二十年後へ永遠にこの自然が息づいていけばどんなに素晴らしいことか改めて考えさせられてきました。また機会があったら、来てみたいと思います。

自然を自然のままに
残したい。応援します

■梁しかったです。水の綺麗な緑など自然の大切さを感じます。個人的にはなかなか体験できなかったことですので、参加してよかったと思います。研究所の所長さんが最初の説明で言われたとおり、「子供達が自分の安全は自分で」も体験しなければ分らないことです。自然を自然のままに残すことはとても大切なことです。陰ながら応援したいと思います。

土の軟らかさ、苔の
美しさに驚きと感謝

■もののけ畑の世界を歩いて感動します。土の軟らかさ、苔の美しさ、水の清らかさは、昔からずっと続くものですね。初めの水、苔の水はあんなに綺麗だったのでね。当たり前の水は、こうやって作られていることに驚きと感謝です。改めて水について考えました。

こんな素敵などころ
私自身が満足でした

■このツアーに参加しなければ、こんな素敵などころ、知らなかったです。子供のためにと思い申し込んだのですが、私自身も満足でした。水の流れる音や冷たさ、色、その場の空気、心がリラックスできたようです。子供たちにこのような体験をたくさんさせたいと思いました。

自然の偉大さ
素晴らしさに感動

■大変楽しい体験でした。自然の偉大さ、素晴らしさに感動しました。また、子供達の頑張っている姿も感動しました。子供たちに達成感、満足感を与えることが出来るこの様な事業は、大切であると思います。もっと多くの人に知ってもらえるようPRも必要ではないでしょうか。

特集「源流体験」



福城市青少年委員会（6月3日）

子ども達が親に頼らずたくましく見えた

「源流体験教室」は、源流の険しい谷を、自分の力を信じて、危険や怪我を乗り越え自分の道は自分で歩く力を身につけ、源流域の自然環境への理解を深めていくことがねらいです。源流に立ち向かう子ども達への応援歌を紹介します。

自然を楽しむ子ども達の姿に感動した

■家族五人（妻・小学生五年・

三年・一年）で参加しましたが、源流体験がどういうものかわからず、不安一杯でした。到着してまもなく熱心な案内の方の説明を聞き、自然を愛する心や自然の素晴らしさを聞き感動しました。子供たちも日頃はテレビばかりでちょっと心配でしたが、川を登り始めた頃はいかにも「不安」という感じが最後には、川登りを楽しんでいる子供本来の姿に見え、源流体験に来て本当によかったと思う。

子ども達の瞳が素晴らしかった

■いつもは山の上から見て川が綺麗だと思っていたのですが、実際に源流に入ってマイナスイ

オンを感じたり自然に抱かれて心がリフレッシュしました。水と花と木と空気が一体となって、子供と共に童心に返れました。子ども達の目の輝きがとても素晴らしいです。何回も続けてください。

きっと子ども達に受け入れられる

■二度目でしたが新鮮な気持ちで体験できました。新しいルートも開拓してください。いつもスタッフの皆さんの努力に感謝しています。きっとこの源流体験は、広く都心の子ども達に受け入れられて、千客万来になるものと思います。

個人で体験できない貴重な経験でした

■まずはびっくりしました。源流体験といってもイメージがわからず、何でヘルメットなのか、



多摩市諏訪小学校の「源流体験」（9月10日）

源流体験で「自然」と生きる力がつくでしょう

■天気にも恵まれ、リーダーの指導のもとにより体験が出来ました。各地の川で泳ぐことが趣味で、滝壺で「泳跡」を残せたことは幸せでした。家族からは非難の眼差しを受けましたが、こういうところで子供が体験を積むと生きる力が「自然」とついで、よいと思います。子供達が積極的に活動したのがよかったです。

本当にスリル満点でワクワクしましたよ

■釜淵の岩登り楽しかったですね。綱を持つ手が少しふるえましたが、本当にスリル満点でワクワクしましたよ。自然の大きさ、怖さ、素晴らしさを子供たちに感じて欲しい。そしてこの多摩川を大事にしたいなど思ってくれるよう取り組みたい。

子ども達が親に頼らずたくましく見えた

■家族五人での参加でしたが、子供たちも親に頼ることもなく歩き通したくましく見えました。

感動広げる『源流古道体験の旅』

昨年百年に一度のイベントとして計画された「源流古道水源林体験の旅」は、参加者に大きな感動を与えましたが、参加者から今年も是非実施して欲しいという強い要望に応じて全コースのうち、松姫峠から大菩薩峠を経て柳沢峠に至るAコースの「源流古道の旅」を八月九・十・十一日の二泊三日で実施しました。この事業は、来年Bコース、再来年Cコースと継続し三年かけて多摩川源流部の雄大な山々を踏破することになっています。

紺碧の青空や朝陽など 大自然の醍醐味を満喫

奥秋課長が「益々源流を好きになって」と挨拶

九日午後四時に奥多摩駅に集合した参加者は、源流研究所で日程説明会を聞き、夜は旅館で懇親会を持ち楽しい一時を過ごしました。

「源流古道の旅」当日は、快晴に恵まれ、朝八時、松姫峠で出発式が行われました。出発式では、小菅村を代表して奥秋総務課長が挨拶しました。奥秋課長は、「小菅村は、源流の自然、歴史などの資源を生かしたむら



源流古道体験の旅・天狗の頭で記念写真（8月10日）

天狗の頭で紺碧の青空が 参加者を出迎える

づくりを目指し、昨年四月に源流研究所を設立した。源流研究所は調査研究、情報の発信、源流と流域との交流の推進を図っていて、確実にその基礎を築きつつある。源流古道の旅を通して益々源流を好きになってもらい交流が益々発展するよう期待します」とあいさつしました。

続いて源流研究所の中村所長が日程説明し、「源流古道」の横断幕を米山さんに、「古道」のタスキを山崎さんと富田さんにそれぞれ託しました。昨年Bコースに参加した松岡夫婦が参加者を代表して「源流の森を自



石丸峠付近を歩く参加者（8月10日）

大菩薩の朝日に 歓声とため息

大菩薩峠の弁山荘に到着すると、山小屋の主人益田さんから美味しい桃の差し入れがあり、夕食は野外ステーションで美しい夕焼けを眺めながら、古道の旅恒例のカツカレーとワインを頂きました。十一日の早朝、早起き組は、東の空のガスの切れ間から立ち上る真っ赤な朝日に歓声とため息が漏れていました。さらに昨年に続き、幻想的なプロッペン現象に拍手が沸き起こっていました。参加者は、早朝に繰り広げられる大自然の醍醐味を心ゆくまで楽しんでいました。

最終日は、朝六時に朝食を済ませ、大菩薩峠で記念撮影をした後、弁山荘の益田さん一家に感謝し柳沢峠に向けて出発しました。丸川峠付近には、ヤナギラン、ヒメトラノオ、カイフウロ、コオニユリなどの山野草が顔を覗かせていました。源流古道の旅の一行は、午後二時に柳沢峠に到着しました。終了式で中村所長から参加者全員に「完歩証明書」が手渡され、参加者は源流古道の全コース走破への夢を膨らませていました。

シリーズ「水源の森」① 都水源林における経営計画の変遷



東京大学大学院
森林科学専攻修士課程

泉 桂子

山梨県出身の大学院生泉桂子氏は、水源林問題に関心を寄せ、都水道水源林、横浜市道志水源林、甲府市水源林等の歴史に関する研究論文を発表している。ここでは、「都水源林における経営計画の変遷」(「森林文化研究」より)を数回に分けて紹介する。

1、はじめに

近年、森林と水とのかかわりには注目が集まっている。

例えば、国民が森林に期待する働きについて、平成元(一九八



都水源林

九年と同五(一九九三年)の世論調査の結果を比較すると、森林の「水資源をたくわえる働き」に期待する人の割合は、五十三・八%から五十九・〇%に増加している。都市においては、水質の悪化や濁水への危機感などがあり、水源への関心が高まっている。

また、水源林の整備費用を負担するなどして、森林の下流部が上流の森林整備に取り組んだ事例は、平成五年度、林野庁が把握したもので百件程度見られる。その半数以上は昭和五一(一九七〇)年以降のものであり、近年大幅に増加する傾向にある。

これに加え、林野庁は、平成七(一九九五)年、全国百か所を「水源の森百選」を選定した。

これは、国民の生活と密接に係る水源の森林について、その役割や重要性または森林の維持管理の必要性についての国民の理解を得ることを目的としている。

さて、本論では、研究の対象として東京都水道水源林および横浜市道志水源かん養林を取り上げた。東京都と横浜市は日本を代表する大都市であるが、ともに明治(大正)期に水道の水源

地域に水源林を取得し、以来八十年以上の水源林経営を行っている。東京都水道水源林は現在の塩山市(一ノ瀬高橋、東京都奥多摩町)、山梨県丹波山村、小菅村等に位置し、また横浜市道志水源かん養林は山梨県道志村に位置し、水源林(東京都水道水源林においては面積の約八割)が山梨県に位置している点でも共通している。本論では、両者の水源林の経営の沿革について簡単に触れるとともに、それぞれの昭和四〇年代後半、平成三(一九九二)年の経営計画の大きな転換点(天然林の伐採中止と人工林の天然林化の試み)を紹介・報告するものである。

2、東京都水道水源林

徳川時代における多摩川上流地域の森林地帯は、主として天領に属し、「お止め山」と称する禁伐制度を設けていた。しかし、地域住民については、入会権を得て生業に必要な林産物の収穫が許されていた。このため、水源地域の森林は、大切に保護育成され、うっそうとした森林が形成されていた。

明治維新後の多摩郡は、4郡に分割され、その一部は一時神奈川県に所属になった。また、明治一四(一八八二)年山林原野官民有区分が施行され、多摩川の重要な水源地である萩原山等は、所有区分が不明確のまま官林に編入され、明治三二(一八八九)年には御料林となった。以上水源地域の行政および林政の混乱により、水源地では林木の盗伐、乱伐、開墾、焼畑等が日常的に行われ、森林は荒廃した。

これを憂えた東京府は、明治三四(一九〇二)年山梨県丹波山村、同小菅村にある約八千二百町歩と、府下水川村(現奥多摩町)日原地区の約三三四町歩の御料林を譲り受け、水源林経営に着手した。

しかし、森林の荒廃はやまず、これを危惧した東京市は、明治三六(一九〇三)年、萩原山御料林

および東京府有林で水源林経営のための調査を行った。その結果は明治四一(一九〇八)年「多摩川流域森林調査第一報告書」としてまとめられ、数次にわたる調査の後、詳細な水源林経営案が答申された。その議論の中では、水源地域の荒廃と多摩川の水質悪化の問題、今後の東京市における水需要の伸び、また、水源林経営による財産形成の可能性等が述べられた。この経営案は同四三(一九一〇)年の市会

において議決され、同年東京市による水源林経営が開始された。さらに府下水川村、同水川村、同古里村(現奥多摩町)に散在する御料林約七百町歩を譲り受け、合わせて経営することになった。

明治四四(一九二二)年帝室林野管理局は、萩原山御料林を山梨県に恩賜林として下賜したので、東京市では萩原山の払い下げについて山梨県と交渉に入り、これを買取することで合意した。また、東京市長は明治四五(一九二二)年、府有林の譲渡願を府知事に申請し、代価二十二万円でこれを買取し、山梨県丹波山村、小菅村および府下水川村に散在する八五二五町歩の森林と、一切の付属施設を買取ることができた。

上記の森林取得により東京市による水源林経営の基礎が築かれた。

10月19日(土)午後1時開会*小菅村中央公民館他

●水と森と食の祭典 (●印の催しは参加費無料です) 19日正午にJR奥多摩駅前から小菅行き臨時バスが発車します。

世界子ども水フォーラム地域交流プログラム

- 講演「巨樹からのメッセージ」平岡忠夫氏(巨樹の会主宰)
- 報告「水源林を造った人々」稲場紀久雄氏(大阪経済大学教授)
- シンポジウム「水と森と川を語ろう」

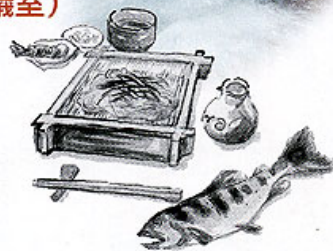
コーディネーター 石田幸彦氏(八王子ランドマーク研究会)
 コメンテーター 菅沼栄一郎氏(テレビ朝日ニュースステーション元解説者、朝日新聞記者)
 村崎修二氏(猿まわしの第一人者・伝承者)

●平岡忠夫巨樹展開催

◆交流立食パーティ(会場:小菅村役場2階会議室)

地元のお酒、ワインなどがあればお持ち寄りください。
 ※イワナ骨酒・イワナの刺身・源流寿司・ヤマメの塩焼き・きのこ汁
 手打ちそばの実演など。

- ◆参加者募集/定員150名(先着順)
 - ◆参加料金/1泊2食 10,000円(宿泊、パーティ、温泉代含む)
 - ◆友人などお誘いの上どしどしお申し込み下さい。
- お申し込み・お問い合わせ先/小菅村役場 TEL 0428-87-0111



■主催

小菅村・多摩川源流研究所・(財)水と緑と大地の公社・小菅村観光協会・小菅村商工会・水と森と食の祭典実行委員会(加盟団体:日本下水文化研究会/NPO法人多摩川センター/NPO法人多摩川エコミュージアム/多摩川癒しの会/多摩川源流を訪ねる会/多摩川と語る会/多摩川リバーシップの会/多摩川源流観察会/川崎水辺の楽校/狛江古代カッパ多摩川いかたレース実行委員会/狛江水辺の楽校/道志道の会/川崎水と緑のネットワーク/多摩川の自然を守る会/全国源流ネットワーク/ATT/奥多摩森林館/みずとみどり研究会/八王子ランドマーク研究会/三多摩自然環境センター/他)

■協力

東京都水道局/京浜工事事務所/多摩川源流協議会/世界水フォーラム/全国簡易水道協議会

10月20日(日)午前10時開会*小菅の湯周辺

●小菅村・第5回大地の恵祭 源流の魅力体験しよう!

事業名	内容	会場	実施関係団体
①多摩川流域子供交流会 (世界子ども水フォーラム)	多摩川源流の子供と下流域の子供が源流体験を通して、交流を深める。	小菅川源流部	川崎・狛江水辺の楽校、小菅村子供クラブ、源流研究所
②源流の森の再生	源流域の人工林の間伐作業に参加し、水源の森の再生に寄与する貴重な体験。	小菅村	一般参加者、北都留森林組合、源流研究所
③多摩川源流郷土芸能	小菅村の大菩薩御光太鼓の公演、太鼓の実習などを通して郷土芸能に触れる。	小菅の湯周辺	一般参加者、大菩薩御光太鼓
④郷土食の体験	村に伝わる郷土食の提供と手作り体験(こんにゃく、ワサビ漬け)。	小菅の湯周辺	一般参加者、小金持ちになるべえ会
⑤多摩川源流の産業・特産品体験	竹、つる細工などの即売と実演。	小菅の湯周辺	一般参加者、ゆうゆうクラブ
⑥道志・小菅源流特産品交流会	道志は相模川の源流、小菅は多摩川の源流。水、ワサビ、せんべいなどの味くらべによる源流特産品交流会。	小菅の湯周辺	一般参加者、道志村、小菅村

上記イベントはどなたでもご参加いただけますが、②「源流の森の再生」は事前の申し込みが必要となります。(定員30名)。作業着、くつ、タオルをご用意下さい。また④、⑤などの体験コーナーは材料費を負担していただきます。

●お楽しみコーナー

農産物の直売・源流汁・焼き鳥・フランクフルト・きのこ鑑定団・くじ引き(賞品あり)・農産物重さ当てコンテスト

■お申し込み先/山梨県小菅村役場 TEL0428-87-0111 FAX 0428-87-0933

■主催/小菅村・(財)水と緑と大地の公社・小菅村商工会・小菅村観光協会・多摩川源流研究所

■協力/「水と緑と食の祭典」実行委員会加盟団体・北都留森林組合・大菩薩御光太鼓・小金持ちになるべえ会・ゆうゆうクラブ

■連絡先/山梨県小菅村役場 TEL 0428-87-0111 FAX 0428-87-0933